

特に経済は資本が利潤目的に大規模化・寡占化する時に、人間や地域・資源を非公共的＝無政府的に支配します(この10年間:非正規+10%で3人に1人、戦後最大の生活保護者。給与△30兆円、大企業収益+90兆円)。また「エリートコース」を歩んだ大企業幹部や国家機構を主導する官僚・政治家達の多くは、残念ですが国民の安全・平和を一義的価値におき現在危機を打開する真のリーダーになっていません。(利権、保身、自浄力不足、政局型)

大人たちが「能動・連帯・持続」に切り替えていく営みと併せて、「未来を実際に生きていく児童・若者への人間としての総合的な成長を励ますような教育」が、これからの社会の在りようを左右すると言えます。

それは、特定の知識・信条・情報を強制するのではなく、人類史の科学や文化的財産(芸術、民芸、技術、道徳)を引き継ぎながら、自らテーマを決め、個性を磨き、社会の問題に立ち向っていく意欲・知性・人間性を培う市民としての人格形成的教育でなければなりません。換言すると、従来の受験暗記型学力や競争主義的評価システムではなく、(それらを超える相互型学習、豊富な社会体験、多彩な表現活動、ものの見方を広げる哲学醸成などを通じて)、本物に触れ、発見に感動し、仲間と協同して新しい事柄に挑戦していくような場\*\*が、とりわけ初等中等教育に必須なものとなります。そこに地球環境問題、自然・食料生産を担う一次産業の体験機会、ノーマライゼーションも大事な課題となります。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆  
日本の教育制度は、戦後システムの根幹(6・3・3制、「国定」教科書と指導要領⇒画一管理主義、国旗国歌強制、公立偏重予算)の集権的弊害が問われており、子ども・若者はもちろんのこと教師・父母の大人も困難を抱えています。かつてデュイは述べた如く、既存の保守(固定)的な価値観に拠る教師・教科書中心の学校教育から、児童自身が学び生活し自立を醸成していくような「重力」の中心をコペルニクス的に転回する(1919年)教育へ、今日的な“生徒たちが主人公＝学び成長する主体者”となる学校への転換\*\*が必要となっているのです。

関連して、戦前・後に生まれた私立学校が「自由、国際化、独創、労作、宗教的奉仕、道徳…」

などを掲げて開校し、その理念に独自性が表現されていますが、現実側面では生徒確保等により「進学率偏重、スポーツ主義…」となる場合も多く、子ども達一人ひとりの成長に対応して人間的発達を保障する学び舎とはなっていません。ここでも、大人・社会の価値観(より良く・善く・点数至上価値)が問われているのです。

注\*「社会はその児童を指導することにおいて児童の将来を規定しながら、同時に自己の未来を決定している」、「成長の過程は自己更新の過程である。教育の過程は不断の改造、変更の過程」(鏝坂二夫「デュイの教育学」1978年版)

注\*\*「自己の経験不足を他人の経験に学ぶ事によって補う・しかし最も戒むべき事は、あまりに教科書や教師の間に合せの助けに頼りすぎて、生徒自らの手によって問題の解決に資するような材料を与えないということである」(同上)

(→6ページに続く)



◇学生行事巨大ピニール袋に入りく  
リスマスツリー点火、このあと紙吹雪  
が舞う感動シーンが続くナケキキ

■2011年度・NPO年会費納入者■  
ありがとうございます(1/10現在、\*寄金含、敬称略)

【札幌市】 [中央区]村瀬克子\*藤原久美子、曾淵哲子、田中実\*[清田区]草野祐二[豊平区]吉田美由紀、森果\*[西区]小出達夫、[手稲区]江口義孝、榛子\*[北区]㈱ニトリ事務機鈴木みや子、舟木恵子

【道内】 [恵庭市]㈱工藤工務店・工藤匡敏[北見市]山本勝憲[釧路市]廣田健[函館市]谷健一

【道外】 [盛岡市]佐藤節子[東京都]加藤豊子\*

#・b 数年分納入の方も紹介します #・b

◇札幌市～宮秀子、江口義孝、道又健治郎、  
◇斜里町～武田満樹子、の皆さんです。

注/会費納入＝期限の表示は、封筒宛名ラベルの数字にてご確認下さい。「1204」＝2012年4月迄

# 自由が丘ヒューマンラスト

\*由来:1995年以降の市民立の学び舎づくりを、知床の自然保護運動に倣い「ヒューマンラスト」と表現、多くの人々の参加・協同を大切にしています。

(3ページより続く)

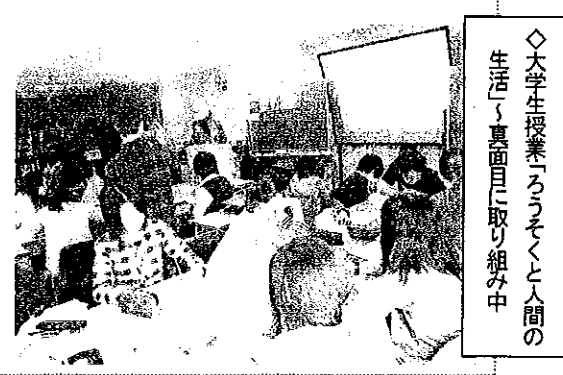
(4) 「かすかな光へ」上映、

「自由が丘」方針・実践など

私達は昨年取り組みで、大田堯さんのドキュメンタリー映画「かすかな光へ」を10/29札幌を皮切りに道内各地約10ヶ所で上映しました。

大田さんはその中で、「違っていること、変わること、他と関わること」を人間や生物の特徴として提示しながら、促成栽培ではない教育活動(アート)とそれを支援する教師(保育者・経営者・福祉施設等の専門家)の役割を演出家と名付け、また父母たちにも孤立しないよう激励しています。更に、「夢を持つ、夢に生かされる」という言葉は、本人のみならず私達に希望を託し鼓舞を促すメッセージと受け取りました。

北海道自由が丘学園のホームページには、「人間の起した課題は、人間自身の力によってしか解決することが出来ない」という考えから、「その力を生み出す教育・学校を創る運動」を進めてきた」と表明しています。競争主義や選抜による人材育成ではなく、憲法(子どもの権利条約)に謳われる基本的人権に基づく学習権を保障する『自由と協同の学び舎』づくりの営み＝「自由が丘ヒューマンラスト運動」は、1998年に夕張スクールから始まり5年半の寄宿型教育実践後に、現在は月寒スクール・子ども館として継続中です。在籍生徒は毎年15～20名と小規模ですが、これまでに百名以上の卒業生を送り出しました。(多くは高校、更に大学進学や就職結婚した者など。中には家業を継いだり、子どもが生まれたとの報告も…卒業生もよく訪れてくる)以下は主な教育活動です。



◇大学生授業「ろうそく」と人間の生活「真面目」に取り組み中

- 基本運営:無学年オープンスクール型、教科+テーマ学習+行事を柱、ミーティング重視
- 総合学習:「地球に生きる科」「人間科」「やってみる科」、体験学習重視～農地借用/余市教育福祉村、自前企画/修学旅行・キャンプ
- 実験授業:教育大学釧路校との実習、年4回各1週間、学生10名以上+教官、総合型授業+行事・食育・泊り会等、\*教師塾
- 個別ケア:学年毎の個別サポート、相談機会、学校との連携、進学ガイド・引率 \*中卒者/社会体験、小学生/初等部ユ-
- エコハウス(7-11):自然採光・導入～暖房/パレット・ブ、電気/太陽光が補、分別ゴミ他 \*CO2の70%削減中、環境教育推進

もちろん、これらはNPO組織の役職員や会員・支援者の方々の支えがあつてのことであり、スタッフの役割も不可欠です。これらを通じて『学びと成長』の向上と『新しい教育』を追求しています。特に生徒達の多くは不登校を経験しており、彼(女)らの学習権保障は待たないであり、これを民間組織が先進・貢献的に担っているのです。

縁あつて拡充した「エコハウス(スクール)」も、原発問題が顕在化した今日とりわけ都会での未来的実践であり、2010年度に受けた「北海道グリーンビズ事業所認定」はその客観的証左ともいえます(700団体応募、NPO唯一)。小樽・共育の森学園との教育連携は途上ですが、堅実な自主再建に加え旧短大施設利活用も本番を控えています。

標題の「希望の革命」は、私達にとり【地域から未来を構築していく改革】であり、教育分野をその土台になるものとして持続させていきたいと考えます。従来に増してのご支援とご指導をお願いするところです。

□■ NPO理事会 □■

◎12月10日、年次2回目理事会兼望年会を開催。時節柄ご多忙の折、本年の取り組み確認と来年度展望を交流しました。(ここで認定NPO法人化の展開説明)

◎後半は、理事・スタッフにボランティアさんも集い楽しい年越しタイム。差入れ・飛入り歌など盛り上がりました。

